

2020年(令和2年)7月8日(水曜日)

北九州 子育て環境V9

政令市部門 移住・定住PRへ

子育て環境の充実度をNPO法人が順位付けする2019年度の「次世代育成環境ランキング」で、北九州市が政令市部門で9年連続の総合1位になった。小児医療や出産環境の充実ぶりが評価された。市は「子育て世帯のニーズを捉え、さらに良い環境を作ってきたい」としている。

ランキングは、男女共同参画に取り組むNPO法人「エガリテ大手前」(東京)が06年から実施。「小児医療」「児童福祉」など7項目を、国の統計などを基に分析し、独自の基準で点数化している。点数は非公表。19年度は20政令市と52中核市、東京23区を対象に調査した。

北九州市は、24時間態勢で小児救急を受け入れる医療機関が4か所あることが評価され、「小児医療」は6年連続で1位をキープ。新生児1人当たりの産婦人科医院や診療所の充実度を示す「出産環境」でも17年度から1位が続くなど高い評価だった。

一方、「児童保育」は児童館数が少なく14位。共働き世帯のニーズが増えている「乳幼児保育」は、保育所での0〜2歳児の受け入れや延長保育などに課題があるとして7位だった。

同法人の古久保俊嗣代表は「北九州市は長期にわたって子育て支援に重点的に取り組んでいる。全国のリーダーとして政策を発信してほしい」と評価する。

同市の担当者は「引き続き努力するとともに、移住・定住促進のPRにもつなげたい」としている。